

ほろ酔いインタビュー●佐佐木幸綱交遊録●

2016・12・23 於・佐佐木郎

〈第11回〉一九七六年、畑朋子さんと結婚 歌集『夏の鏡』、評論集『極北の声』

『柿本人麻呂ノート』出版のころ

佐佐木幸綱＋高山邦男・大野道夫・黒岩剛仁・加古陽・奥田亡羊＋佐佐木朋子

▽学生(教え子)だった朋子夫人との出会い

高山(司会) 今回はいつものメンバーの大野さん、黒岩さん、加古さんに加えまして、前に一回来ていただいた奥田亡羊さん、それに佐佐木朋子さんにも参加していただこうと思います。年表は大口玲子さん作成のもの、と谷岡亜紀さん作成のものを参考にしました。テープ起こしは吉田瞳さんです。今日は佐佐木先生と朋子さんとの結婚というプライベートな話題から始めます。

この辺は黒岩さんが得意だと思えますので、切り出してもらいましょう。どうぞでしょうか。

黒岩 一九七六(昭和五十一)年三月、畑朋子さんと結婚されました。先生はそのとき三十七歳ですね。第三歌集『夏の鏡』、評論集『極北の声』『柿本人麻呂ノート』などを出されたところですので、とても充実していた年だと思います。そこでさらに人生上でも朋子さんと結婚されるという充実期でした。

高山 まず、出会いからうかがった方がいんじゃないですか。

黒岩 大学院で出会われたんですね。

幸綱 大学院じゃない。学部だった。

大野 噂では、朋子さんは小説を書いていて、先生に見せに行かれたのがきっかけだとか。

幸綱 当時、俺は「早稲田文学」の編集委員だった。「早稲田文学」の編集委員には、この間、亡くなった詩人の長田弘君らがいる。小説家の三浦哲郎さんがいちばん長